

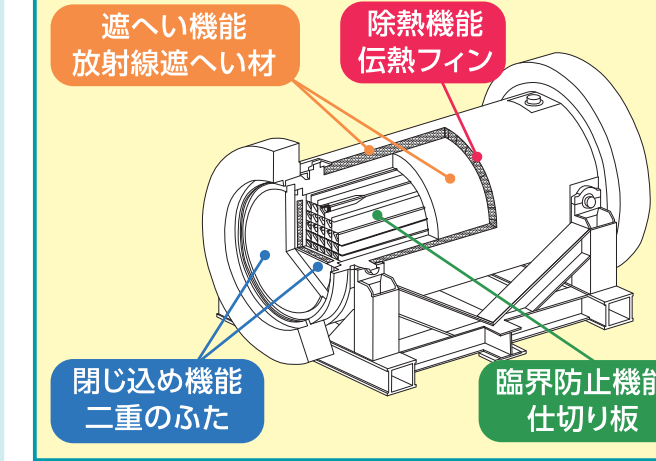
「使用済燃料乾式貯蔵施設」の設置について

「使用済燃料乾式貯蔵施設」は、女川原子力発電所2号機の再稼働に伴い、使用済燃料プールが今後4年程度で貯蔵容量の上限に達するため、使用済燃料を発電所から搬出するまでの間、一時的に貯蔵する施設として設置するものです。なお、当該施設の設置に伴い、本年2月27日、宮城県ならびに女川町、石巻市に対し、当該施設の設置に係る「事前協議申し入れ」を行うとともに、2月28日には、原子力規制委員会に対して「原子炉設置変更許可申請」を行いました。

【使用済燃料乾式貯蔵施設の概要】

当該施設は、女川原子力発電所2号機の使用済燃料プールで十分に冷却された使用済燃料を、「乾式貯蔵容器」と呼ばれる金属製の丈夫な容器に収納し、「乾式貯蔵建屋(2棟)」で貯蔵する施設です。なお、この乾式貯蔵は、水や電気を使用せず空気の流れで冷却することから、安全性に優れており、既に国内の原子力発電所でも行われています。

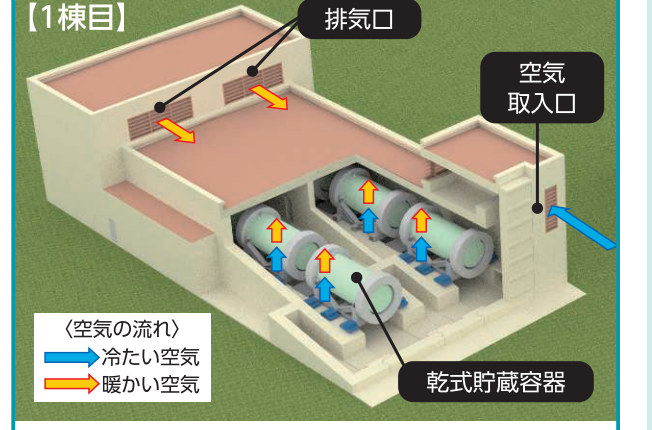
乾式貯蔵容器 (イメージ図)



乾式貯蔵容器は、使用済燃料を安全に貯蔵するため、「閉じ込め」「遮へい」「臨界防止」「除熱」の4つの安全機能を備えています。

	仕様(1基あたり)
寸法	[全長]約5.4m [外径]約2.5m
重さ	約119t (使用済燃料を収納した状態)
収納体数	使用済燃料 69体

乾式貯蔵建屋(イメージ図)



乾式貯蔵建屋は、鉄筋コンクリート構造とすることで、施設の敷地周辺における放射線量の低減をはかります。

	仕様(1棟目)
構造	鉄筋コンクリート構造 (約40m×約20m・高さ約10m)
設置場所	海拔38m
工事着工	2026年5月
運用開始	2028年3月

※2棟目(海拔36mに設置)は、2030年8月工事着工、2032年6月運用開始を予定しています。

使用済燃料は、このまま発電所で保管しておくの？

A. 使用済燃料は、発電所の使用済燃料プールならびに今回設置予定の乾式貯蔵施設で安全に管理していくとともに、発電所からの搬出については、これまで搬出実績のある再処理事業者で再処理を行うこととしています。

地震や津波対策は大丈夫なの？

A. 使用済燃料を収納する「乾式貯蔵容器」は、発電所の耐震設計で最も重要な設備の分類と位置付けており、地震時においても4つの安全機能が維持できることを確認しております。また、「乾式貯蔵建屋」は、発電所で想定される津波高さ23.1mに対して、津波の影響を受けない海拔38m(1棟目)の敷地高台に設置することとしております。

より、そう、ちから。

東北電力からのお知らせ

本紙は女川原子力発電所が立地している女川町、石巻市と、隣接する登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町の皆さまに向けたコミュニケーション紙です。



女川原子力発電所2号機における安全対策工事完了時期の見直しについて

女川原子力発電所2号機の安全対策工事完了時期について、現在実施している「火災防護対策工事」の工期を改めて精査した結果、これまでの2024年2月から2024年6月に見直しました。(2024年2月公表)

引き続き、地域の皆さまからのご理解をいただきながら、再稼働を目指してまいります。

	< 従 来 >	< 変更後 >
工事完了	2024年2月	2024年6月
再稼働	2024年5月頃	2024年9月頃
営業運転開始	2024年6月頃	2024年10月頃

ROSE GARDEN FAIR

ローズガーデンフェア 2024 入場無料

開催期間：2024.5.25(土)～6月下旬
※6月17日(月)は休業

女川原子力PRセンターのスイートガーデンでは、1年を通してさまざまな植物を楽しめます。特に、ローズガーデンフェアの期間中は、約110種類ものバラが見頃を迎え、色鮮やかに咲きこぼれます。ぜひご家族、ご友人などお誘い合わせのうえお越しください。

写真のプリントサービス付き
バラと一緒に記念撮影

お問い合わせ
女川原子力PRセンター TEL.0225-53-3410

■住所/宮城県牡鹿郡女川町塚浜字前田123 ■開館時間/9:30～16:30
■休館日/毎月第3日曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始

東北電力の商品ラインナップ

あなたの暮らしによりそうプラン・サービスを豊富にご用意しております。

備えてあんしんサービス

「もしものトラブル」に備える定額サービスをご用意しております。

すまい安心サポート

電気設備・水まわりのもしものに備え、トラブル発生時には作業店を手配します。

※一部商品については、サービス提供エリアが限定されております。詳しくは各Webページでご確認ください。

カギ・窓ガラス・建具トラブルサポート

カギの紛失、窓ガラスのヒビ、ドアの不具合などのトラブルの際に駆け付けます。

ほかにサービスはたくさん!詳しくはこちら!



女川原子力発電所2号機は、安全確保を最優先に、6月の安全対策工事完了に向けて、全力で取り組んでいます。

安全対策工事は主に、「地震から守る」「津波から守る」「電源を確保する」「原子燃料を冷やす」「事故の影響を抑える」の5つの備えへの対策を行っています。

これら安全対策工事の状況については当社ホームページや女川原子力PRセンター見学時にご覧いただけるほか、当社事業所が地域の皆さまからのご要望に応じて出前にて行う「バーチャルリアリティ (VR) 見学」も体験できますので、是非、お問い合わせください。



地震から守る

▶ 建屋や配管などにさらなる「耐震工事」を実施

原子炉建屋の部材追加・強化をはじめ、配管へのサポート追加などの耐震工事を実施しました。



原子炉建屋上部の耐震工事

主蒸気配管の耐震工事

津波から守る

▶ 海拔29メートルの「防潮堤」を設置



東日本大震災での津波(最大約13m)は発電所敷地の高さを超えませんでした。最新の知見等を反映したより厳しい条件を想定し、海拔29mの防潮堤を設置しました。全長は約800mで、発電所の海側を囲むように設置され、敷地内への津波の流入を防ぎます。

電源を確保する

▶ 大容量の「ガスタービン発電機」を設置

万一、発電所の外部電源や非常用ディーゼル発電機が使えなくなった場合に備え、ガスタービン発電機を緊急用電気品建屋に配備しました。



高台にある緊急用電気品建屋

大容量のガスタービン発電機

原子燃料を冷やす

▶ 「淡水貯水槽」の設置や「大容量送水ポンプ車」の配備

万一の際に必要な冷却水を確保するための設備や原子炉などへ送水する車両を高台に配備しました。



約1万トンの水を貯蔵する淡水貯水槽

消防車の約10倍の送水能力を持つ大容量送水ポンプ車

事故の影響を抑える

▶ 「フィルタ付格納容器ベント装置」を設置



万一、重大な事故が発生した際、放射性物質の放出による環境への影響を1/1000以下に抑制します。これにより、環境への影響を十分に低く抑えることができます。

VR見学では安全対策工事の概要を解説

出前型バーチャルリアリティ見学で女川原子力発電所見学を体験してみませんか？

東北電力宮城支店では、地域の団体さまやグループの皆さまのところに伺って開催する、出前型バーチャルリアリティ (VR) 見学を行っています。内容は、女川原子力発電所における安全対策の概要説明とVR見学をセットで行う出前型イベントです。

- 会場: 団体さまやグループの皆さまにご準備いただけます。
- 所要時間: 約60分(準備の時間を含め約90分)
- 対応人数: 15~30人



お申込み・お問い合わせは、右の二次元コードよりおすすみください。



※お電話でのお問い合わせはこちら
宮城支店: 022-225-2165
平日: 10:00~12:00 / 13:00~16:00

安全対策工事の状況については、東北電力ホームページからもご覧いただけます。

下の二次元コードよりおすすみください。



※写真は最新のものです。実際のVR見学では工事中の映像も含まれます。